

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

西川 博会長 年度目標
「ロータリーの輪を広げよう」

例会場 名古屋クレストンホテル

TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

プログラム・クラブ会報広報委員長 矢野雄嗣



創立 1995年3月9日
承認 1995年3月28日
会長 西川 博
幹事 加藤 久明

事務局 名古屋市中区栄3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Mail rc.nagoya-marunouchi@waltz.ocn.ne.jp

HP <http://www.nagoya-marunouchi-rc.org/>

第866回 例会No.5 平成25年8月1日(木) 晴

クラブフォーラム

■ ローターリング	「君が代」「奉仕の理想」
■ 出席報告	会員42名中25名出席
■ 出席率	64.10% 出席計算人数39名
■ 修正出席率	7月18日 94.60%
■ ゲスト	名古屋昭和RC会長 大矢英憲さん
■ スピーカー	堀江俊通さん

会長挨拶

みなさんこんにちは

本日は名古屋昭和ロータリークラブ会長 大矢英憲様に後程、地区大会のPRをいただきます。よろしくお祈りします。

さて今年度から「ロータリーの綱領」が「ロータリーの目的」に変更になりました。

第1例会にて加藤幹事から報告がありましたが、詳しい内容について、ロータリーの友2013年1月号横組み18～19ページにそってお話いたします。

以下本誌より抜粋・……………

長年、私たちが遵奉して来た「The Object of Rotary (ロータリーの綱領)」の日本語訳が久しぶりに「ロータリーの目的」と改訂され、最終的に2012年11月28～29日に開催された第41回ロータリー研究会にて綱領等翻訳問題調査研究小委員会の鳥居滋委員長から発表されました。

「The Object of Rotary」の英語原文は従来そのままですが、日本語訳は「ロータリーの綱領」が「ロータリーの目的」と変わり、内容も現代的な表現に改訂されています。ロータリーとはどんな組織か、目的は何か、どんな活動をしているのかなどの課題が、このたびの改訂で私たちロータリアンにも、また、若い世代の人たちにもより親しみやすくなりやすくなりました。

「The object of Rotary」の経過

1905年に創始されたロータリーは、1910年に全米ロータリークラブ連合会になり、1912年に国際ロータリークラブ連合会になりました。そして、組織変革の都度、定款の内容を変えながら、1922年に国際ロータリー(RI)に改称され、定款・細則が基本的に改訂されました。1927年には四大奉仕部門が確立されて、1935年に定款がまとめられ「ロータリーの綱領」となりました。

その後、1951年に「The Objects of Rotary」が「The Object of Rotary」に変更され、「Objects」という複数数が「Object」という単数になりました。そして「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という文言が主文になって、主文とともに四項目の奉仕部門が定着しました。1989年には、主文の「実業人と専門職業人」という訳語が「事業と専門職務に携わる人」という文言に変更されましたが、その後、長年、変わることなく日本のロータリアンに親しまれてきました。しかし、この間、この「ロータリーの綱領」という日本語訳は、訳語が英語の原文と比較して妥当でない、また内容や表現が理解しにくいなどの賛否両論の意見がありました。従って、もっと理解しやすい平易な文章にすることが日本のロータリーの長年の宿願でした。

【綱領等翻訳問題調査研究小委員会】と

【RI理事諮問委員会】

そこで「ロータリーの綱領」という日本語訳を理解しやすいものにしてという意向から、2010～12年度の近藤雅臣RI理事や小沢一彦財団管理委員の提案でガバナ―協議会に第2690地区の鳥居滋パストガバナーを委員長とする綱領等翻訳問題調査研究小委員会が設置され、7人の委員が選出されました。

この委員会は、まず、日本のロータリアンの「ロータリーの綱領」に関する世論調査から始め、個別テーマの調査研究や原文英語の検討に至るまで、3年間にわたって熱心な調査研究が続けられました。このような長年の懸命な努力が実りその結果、RI理事諮問委員会は全体の文章を現代的な表現にし、理解しやすいものにするには異議はなく、「綱領」を「目的」にすること、ならびに「奉仕の理想」を「奉仕の理念」に変更することにも同意いたしました。

また、主文の「有益な事業」という文言は「意義ある事業」としました。その他、各項目の文言は綱領等翻訳問題調査研究小委員会の答申が主体です。

そこで、これらの結果を全体的にまとめ、RI日本語課と協議し、調整の上、最終的に日本語翻訳改訂案が承認されました。田中作次RI会長の了承も得てあります。

この経過と内容は、第39回、第40回、第41回のロータリー研究会で発表され、また『ロータリーの友』2011年2月号、9月号、2012年3月号に掲載されていますので、詳細はロータリー研究会の報告書か、または『ロータリーの友』掲載号をご覧くださいと思います。

新「ロータリーの目的」

